



【子供に伝える愛の方法】

聖書の本文: マルコの福音書10章13-15節

今週の御言葉: マタイの福音書18章10節

愛する教会の家族のみなさん！一週間も主の平安の中でお元気で、過ごされましたか。

今日は特別に子供祝福の主日として礼拝をささげていますが、みなさんの子供たちの上、特に我々のクリスチャンプレイズチャーチにかよっている子供たちの上に神様の豊かな祝福と力と知恵をお与えて下さるように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！

子供の主日を迎えたからではなく、今こそ教会がもっと子供たちに暖かい関心を持たなければなりません。子供たちがいない社会、国、教会とは未来を明るく夢見ることができません。それは現代今の社会の要求以前に、われらの主イエスキリストがすでに子供たちの大切さを聖書を通して十分に教えてくださっているからです。

<しかし、、、今の日本の子供虐待状況>

虐待(ぎゃくたい)とは、自分の保護下にある者(人、動物等)に対し、長期間にわたって暴力をふるったり、日常的にいやがらせや無視をするなどの行為を行うことを言う。一言に虐待といっても、対象や種類は様々である。英語の“abuse”は「濫用」という意味だが日本語に翻訳する時その言葉が指していた虐待(や酷使)を使う事になっています。子ども虐待とは「何も悪くないのに 長期間にわたって子ども自身に、耐え難い苦痛を感じさせること」です。特に日本で虐待死の統計の報告は年間50件を超え、1週間に1人の子どもが命を落としている状態です。

虐待には法律的に4つの場合があります。身体的虐待、性的虐待、ネグレクト(育児放棄、監護放棄)、心理的虐待がいます。

* **身体的虐待**: 児童の身体に痛みと苦痛が生じ、または外傷の生じるおそれのある暴行を加えることです。行為は「一方的に暴力を振るう(殴る、蹴る、叩く)」、「外傷がなくとも継続的に痛みを与える(食事を与えない、冬は戸外に締め出す、部屋に閉じ込める)」に分けられます。

* **心理的虐待**: 児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うことで、児童の健全な発育を阻害し、場合によっては心的外傷後ストレス障害(PTSD)やうつ病、アダルトチルドレン など、重大な精神疾患の症状を生ぜしめるため禁じられています。言葉の暴力、一方的な恫喝、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為などが含まれています。

* **ネグレクト**: 「病気になっても病院に受診させない」、「乳幼児を暑い日差しの当たる車内への放置」、「食事を与えない」、「下着など不潔なまま放置する」、「(幼稚園、保育園、保育所、学校への)通学を行わせない」など。

日本の児童虐待相談件数は統計開始の1990年が1,101件、2008年は37,323件、2011年には59,862であり、毎年増加している。虐待されていた児童の年齢は0 - 3未満が17.3%(6,449人)、学齢前児童が25.0%(9,334人)、小学生が38.8%(14,467人)、中学生が13.9%(5,201人)、高校生・その他が5.0%(1,872人)。性別では男児52.3%、女児47.7%で男児が若干多い。ただし性的虐待では97.1%が女児で中高校生が65.0%となる。虐待をする者は、62.8%が実母(じつぼ)、22.0%が実父(じつぷ)、義父(ようふ)・義母(ようぼ)は合わせて8.3%で、6割近くが実母によるものである事が分かる。

聖書には、マタイの福音書18章5、10節には「また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、私を受け入れるのです。あなた方は、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。」と書かれています。

<子どもたちは天国に入れる人の見本です。>

マルコの福音書10章の本文はみなさんもよくご存知であるイエスキリストが子どもたちを祝福して下さったあの有名な御言葉です。ある親がイエス様をさわっていただくとして、イエス様と出会うため自分の子供たちを、大勢の群衆の中かき分けてみもとに連れて行こうとしました。その親はイエスキリストが自分の子供たちに一言でも祝福の言葉を語って下さるように切に求めていました。ちょうどその時はイエス様は自分の御教えをよく疑っていたパリサイ人たちと大人の結婚と離婚についての深刻なお話中でした。弟子たちは集中し、緊張感が高まっていた時だったし、イエス様の御教えのテーマも子供たちが聞くのにふさわしくないと感じたかも知れません。その親たちはきつとなかなかイエス様の祝福を受けるチャンスを見逃したくなかったので、自分の子供たちをイエス様のもとに連れて行って祝福を受けようと思いました。ところが、そのためイエス様のところに近づいて来ている姿を見た弟子たちは見て怒りながら止めました。弟子たちは子供たちの親たちと子供たちに「近づくな！うるさいな！今、イエス様はかなり忙しいから妨げにならないように連れていて下さいよ！」と。ところが、イエス様は弟子たちの怒っている声を聞いて、かえて憤りながらすぐさま焦点をパリサイ人たちから子供たちとその親たちほうに向けられました。そして、主は腰をかがめてその子供たちをだき、主のひざの上に座せました。そしてイエス様は弟子たちとパリサイ人たち、そしてイエスキリストの御言葉を聞くために集まって来た群衆たちに向かってこう語られました。

マルコの福音書10章14節に「子供たちを、私のところに來させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちの者です。」御言葉によりますと、その後イエスさまは子供たちを抱き、彼らの頭の上に手を置いて祝福して下さいました(16節)と記録されています。

愛するみなさん！この出来事を通してイエス様は今日私たちに子供にどう接するべきなのか、どうすれば子供たちに愛が伝わるかその方法を教えて下さっています。アメリカでベストセラー「愛を伝える5つの方法」のシリーズの著者であり、マリッジ・アンド・ファミリー・ライフコンサルタント社の取締役であるゲーリー・チャップマン博士は子供たちに愛を伝えるためには子供たちには各自必要であり、感じる愛の言葉がそれぞれあることを指摘しています。

1)スキンシップ

そしたら、そんな大切な子供たちに愛が伝わっているのでしょうか。一つ目は愛の言葉にはスキンシップがあります。

実はスキンシップの重要性は、近年に始まったことではありません。紀元1世紀のパレスチナに在住(ざいじゅう)のヘブライ人たちは、イエス様に「さわっていたかどうして」子供たちを彼のもとに連れて来ました。今日の本文ではその時、イエス様の弟子たちは親たちを叱ったと記録しています。弟子たちは、イエス様はほかのもっと重要なことで忙しくて、子供たちとかかわる暇などないはずだと思ったのです。しかし、イエス様は却って憤(いきどお)られました。「『子供たちを、わたしのところに來させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。まことに、あなたがたに告げます。こどものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。』そして、イエス様は子供たちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された」とあるとおりです。」(13節-16節) イエス様は短い時間の中で子供たちを祝福しながら彼らの頭の上に御手を置いてスキンシップをしながらご自身の愛を注いで下さったことを覚える必要があります。

ある子供は愛の言葉としてスキンシップで愛をよく、深く感じられる時があります。

スキンシップは愛の言葉の中でも、最も簡単に無条件に用いることができるのです。親が子供に触れるのに、特別な機会や理由など必要ありません。親は、スキンシップによってほほいっつでも子供の心に愛を届けることができます。スキンシップという愛の言葉はハグみたいに限ったものではなく、あらゆる種類の体の触れ合いが含まれます。例えば忙しいときでも、子供の背中や肩や腕などに優しく触れることはできるのではないのでしょうか。

スキンシップは幼い子ともから特に必要です。スキンシップは最も大きな愛の声の一つです。「愛してる！」と叫びであります。

2)愛の言葉(祝福の言葉あるいは、肯定的な言葉、愛情を表す言葉、賞賛の言葉、励ましの言葉など)を使うこと

ある夜うちの子供と車でドライブしながら聞いて見ました。スキンシップやプレゼント、あるいは一緒に時間を過ごすこと、あるいはやさしい言葉とか賞賛の言葉の中でどちらがほしいのかと聞いたとき、意外とプレゼントとか、何かの物ではなく、肯定的な言葉がもっとほしいと言われました。うちの息子の場合はどんな時よく愛を感じるタイプかよく知ることができたのです。子供たちはそれぞれ自分がよく愛を感じたり、愛がよく伝わって来る方法が実はそれぞれ違うことに大人のみなさんは気づく必要があります。

その中で意外と子供たちは親や大人から 愛情を表す言葉、勇気を組み込む言葉、賞賛の言葉、励ましの言葉などを求めていることを覚えなければなりません。今日イエス様もただのスキンシップで終わったのではなく、子供たちの上に手を置いて祝福されたと言われています。つまり、こどもたちに祝福の言葉で祝福されたということです。そのイエス様の祝福の言葉にはきっと賞賛の、励ましの愛情深い言葉で祝福されたでしょう。民数記6章24-26節のような御言葉を引用されたかも知れません。

『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。:25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。:26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安をあえられますように』神様はモーセに仰せられアロンとその子らに祝福する時このように祝福しなさいと言われた内容です。みなさんは最近自分の子供たちや教会の子供たちにこのように祝福したことがありますか。

以前も紹介しましたが、イスラエルの大事な教育方法の中ではかならず親が自分の子供たちが学校に行ったり、出かける時、食事を食べる前にお父さんが子どものために祝福の祈りをしてあげる習慣があると仰いました。最近みなさんは子供たちにどんな言葉をよく使っていると思いますか。子供たちに最近どう聞いたのか聞いて見ることも良いかも知れません。

実は良い話を子供によく話すことも必要ですが、反面子供の耳に傾けるといことも言葉使いの中でも欠かせないことでしょう。

3)一緒に忠実な時間を過ごすこと

多くの子供たちは親に十分にかまってもらうことを切望します。

実際、子供が見せる困った行動のほとんどは、親の注意を引こうとする表れであることを覚えなければなりません。

今日イエス様はお忙しい中、だれでも子どもが自分に来ることを止めてはいけなくと強く言われました。

つまり、お忙しい中でもイエス様は弟子たちと忠実な時間を共に過ごして下さいました。もちろん、長い時間を子供たちと過ごしたいけれども忙しい親や大人にとってはそれがなかなかできないかも知れません。しかし、短くても一緒に忠実な時間を過ごすことで子供には十分に愛を伝えることができます。忠実した時間とは、相手だけに集中した時間のことです。子供に100%自分の注意を向けてあげることです。我々の問題は子供が成長するにつれ、そのような時間を過ごすことはだんだん難しくなっているということです。

みなさん、忠実した時間で一番重要な要素は、何をするかということよりも、何かを一緒にしている、一緒にいるということです。

子供と一緒に勉強を教えてあげたり、一対一二人でモーニングとか、デートとか、ショッピングでも良いかも知れません。みなさんは忙しい中でも子どもと忠実な時間をよく作ってますか。

これ以外にもお贈り物や必要な手伝いをする事も愛が伝わる方法の一つにもなりますが、自分の子供はどんな方法を求め、よく愛が伝わって来るかをまず知り、実行する親、大人のみなさんになって下さい。

<子どもの価値>(The value of a Child)

イエス様は神の国を受け入れる者がいったいどういう人なのか。どんな信仰を持たなければならないのか一番この世の中で御国に入れる見本のような存在として主は子供たちような存在のようにならなければならないことを示して下さいました。ですから、神の国に子供たちがいかに大切な存在なのか分かりません。聖書をよく読んでみると、ヨセフ、モーセ、サムエル、ダビデなどほとんどの素晴らしい信仰の人物たちの子供のころのお話が記されて、子供のころからだとしても信仰をしっかり持っていたことが分かります。ほとんど神様が子供の時から彼らの人生の中で神様の目的を成し遂げられるために用いられていたことが分かります。

今日の御言葉は子供のころはただ大人になっていくための過程で通り過ぎる段階ぐらいじゃないと教えています。人間の人生の中、子供の時こそ一番神様を純粋に信じられる時であり、一番単純に御言葉に従順できる時であり、自分の間違いをすぐ認め、思いなおして、取りかえることができる！いつより祝福の時であることを教えて下さっています。ですから、子供の時がとても大切なのです。イエス様はこういわれました。

“また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、私を受け入れるのです。あなた方は、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。(マタイの福音書18章5,10節)”

ですから、子どもは支配される所有物ではなく、価値ある人間として神様によって造られました(詩篇139:13-16)。

【それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちに私を組み立てられたからです。:14 私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています。:15 私がひそかに造られ、地の深い所で仕組(しく)まれたとき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。:16 あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。】

神様は私たちに子供を贈り物として与え、委ねられました。聖書では、子どもたちは神様からのお贈り物であり祝福であると言っています(詩篇127:3:【見よ。子どもたちは主の賜物、胎の実(み)は報酬(ほうしゅう)である。】)

ですから、私たち家庭の、神の家族の親は、神様から子どもを育てる特権を与えられているのです。誰一人として同じ子どもがいないように、それぞれの子どもは、母親のお腹の中にいる時から違った個性を持っているのです。ですから、同じ親から生まれた双子だとしても違いがかならず違いがあるでしょう。神様は子供たち一人一人をご存知で、それぞれの子どもにご計画をもっておられます(詩篇139:13-16参照)。自分の子供のユニークな価値を認識するべきです。

<メッセージをまとめて終わらしましょう。>

昔から「三つ子のたましい百まで」といわれてきましたが、人間の子どもは、たましいも頭脳も三歳までにほぼ出来あがってしまうといわれています。赤ちゃんは三歳になるまでにこれらのことを無意識に心と頭で学んでいるのです。そして、大人になるまで覚えられて行きます。子どもたちは求めています～温かいまなざしと、はげましの言葉と、あなたの微笑みと、すべてを受け止めてくれる大きな心を～子どもは、大人に優しく声をかけられ、育(はぐく)まれることを待っています。しかし幼く、寂しさを感じていること、一人心の中で悩んでいることや自分の寂しさなどを上手に表現できません。愛されたい思いを受け取ってと、大人へのサインを必死で送っていることにみなさんはよく気づいていますか。

そして、子どもたちのみなさん！みなさんは価値のある特別な存在であることを忘れないで下さい。神様は決して失敗しない方です。子ども一人一人がいろいろな違いがあるのはそのように自身であるように神によってデザインされたそれぞれの尊い目的、計画があつて意図的に造られたという意味があるからなのです。誰一人同じ人間として造られた人はいません。みなさんにしかないユニークな存在です。ですから、子どもたちであるみなさんは他の人と自分を比較する意味がありません。劣等感に捕らわれたりしないでください。今の自分が自分すべてではないと信じて下さい。みなさんの将来は親であるわれわれより明るく、さらに祝福され、用いられ、幸せになると信じ、祝福します。ですから、神様から離れず、いつも変わらない主の御言葉を自分の近くにして置いてください。神の御言葉の祝福の約束、知恵と信仰がみなさんのものとなって、将来この日本と世界のあちこちで尊く用いられる信仰の偉大な英雄たちとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン